

特集

混合研究法が創る未来

第1回日本混合研究法学会学術集会より

看護学における混合研究法の活用 亀井智子

最先端の混合研究法デザイン Michael D. Fetters

混合研究法としてのグラウンデッドなテキストマイニング・アプローチ(GTMA)

稲葉光行, 抱井尚子

パネルディスカッションより

Michael D. Fetters, Benjamin F. Crabtree, 亀井智子, 抱井尚子

【特別記事】

厳密なシステマティックレビューに取り組む際の視点 松中枝里子, 牧本清子

エビデンスを臨床に浸透させるための試み 植木慎悟, 山川みやえ, 伊藤美樹子, 渡邊浩子, 牧本清子

【連載】

英語論文を書くということ・3 余善愛

編集後記

●査読というテーマは以前から取り上げたいと考えていたのですが、ようやく今回、萱間真美氏ご企画のもと、非常に読みごたえのある形で実現しました。論文の査読は小誌にとっても関係深い重要なテーマであり、こうしたテーマを取り上げる以上、小誌も過去の反省を含めて査読のあり方を見直さなくてはと考えています。雑誌のビジョンを示す「SCOPE」を考える機会と捉え、『看護研究』誌だからこそ掲載の意義がある論文とはどのようなものか、そのための査読はどうあるべきか——今後も各学会の方々に多様な知見を提供いただきつつ、そうした小誌ならではのスタンスを見いだせたらと思っています。●本号は Journal Watch をお休みし、連載が2つ終了しました。その1つ「混合研究法入門」が同名タイトルで早くも書籍になりました。ぜひお手にとっていただけると幸いです。併せて来年1号の特集も！引き続き、来年もよろしくお願いいたします。(小長谷)

看護研究 第48巻 第7号(通巻263号) 2015年12月15日発行(増刊号を含め年7回発行)

発行: 株式会社医学書院 代表者 金原優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo ©2015, Printed in Japan

販売部 (03) 3817-5659 社内案内 (03) 3817-5600 医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp>『看護研究』編集室: (03) 3817-5775 電子メールアドレス kanken@igaku-shoin.co.jp 担当/小長谷・早田 1部定価1,900円+税

2015年年間購読料(税込, 送料弊社負担, 増刊号を含む年7冊): 冊子版13,025円 冊子+電子版/個人16,265円 冊子+電子版/共有18,274円 電子版/個人13,025円 電子版/共有15,034円

〈学割年間購読料〉冊子版10,498円 冊子+電子版/個人13,738円 電子版/個人10,498円

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

本誌を無断で複製する行為(複写, スキャン, デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学, 病院, 診療所, 企業などにおいて, 業務上使用する目的(診療, 研究活動を含む)で上記の行為を行なうことは, その使用範囲が内部的であっても, 私的使用には該当せず, 違法です。また私的使用に該当する場合であっても, 代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行なうことは違法となります。

JCOPY | 出版者著作権管理機構委託出版物

本誌の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。複製される場合は, そのつど事前に出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX03-3513-6979, e-mail info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

●編集顧問(五十音順)

小島操子

聖隷クリストファー大学・教授(学長)

中島紀恵子

新潟県立看護大学・名誉教授

中西睦子

前国際医療福祉大学・教授

前原澄子

前京都橘大学看護教育研修センター・所長

南 裕子

高知県立大学・学長

●編集協力者

阿曾洋子/荒川靖子

井部俊子/蝦名美智子

太田喜久子/岡谷恵子

片田範子/金井Pak 雅子

上泉和子/川口孝泰

河口てる子/川村佐和子

黒田裕子/高橋泰子

近田敬子/筒井真優美

水流聡子/野嶋佐由美

早川和生/舟島なをみ

村嶋幸代/森 恵美

安酸史子/山本あい子

横尾京子

看護研究バックナンバー

Vol.
48
No.
6
Sep
Oct

●特集 | 現象学を語る

【対談】現象学とグラウンデッド・セオリー 西村ユミ, 山本則子
【ディスカッション】大学院生からみた現象学とグラウンデッド・セオリー対談に参加して
西村ユミ, 山本則子, 坂井志織, 棚川綾子, 細野知子, 村上優子, 石井絢子, 城島華子, 藤井文香, 齋藤凡, 西川美代
【対談・ディスカッションを終えて】対談からうまれた3つの「問い」 西村ユミ
研究方法的垣根を越え, 「看護学の知」の山をめざす 山本則子
【臨床実践の現象学会第1回大会大ラウンドテーブルディスカッション「一緒に『現象学する』より」】
1. 現象のリアリティを記述する 現象を理解するための新たな視点や概念を抽出し, それを提案する 萱間真美
現象学的な質的研究の方法論 村上靖彦
2. 事象と現象学との関係性 現象学的な質的研究の多様性 村上靖彦
エピソード研究で「現象学」を使う意味 大塚 類
3. 質的研究の正当性 エピソード研究の妥当性とは何か 大塚 類
現象学的看護研究の立場から 細野知子
研究の正当性とは何か 萱間真美
〈特別記事〉
看護研究のための文献レビュー—マトリックス方式の意義と実際 安部陽子
看護における end-of-life care 教育システムの再構築への提言—スウェーデンにおける予想される死への看護職による死
亡確認の現状から 川原礼子, 佐々木明子, 齋藤美華, 坂川奈央
〈連載〉
英語論文を書くということ①[「連載」] なぜ英語で論文を書くのか—序に代えて 余 善愛
混合研究法入門⑤ 混合研究法デザインとその研究例(1)基本型編 抱井尚子
Journal Watch 海外の看護学研究から学ぶ⑤ 理論的根拠のある情報・知識を効果的に広めていくための教育プログラムとは 奥村朱美
量的研究におけるアウトカムと説明変数の設定の難しさ 森陽子
UCSFで看護研究を学ぶ⑤ コースワークとしての研究実施 齋藤真希

Vol.
48
No.
5
Jul
Aug

●特集 | NP 教育の成果を探る—自律した Health Care Provider をめざして

大学院修士課程における診療看護師(NP)養成教育と法制化 藤内美保, 山西文子
(NPのアウトカムとエビデンス)
①一般病院のケース
プライマリケア領域における周手術期アウトカム, 患者満足度, 看護師からの評価—診療看護師(NP)を導入して5年目の
事例 塩月成則, 藤内美保, 藤本響子, 甲斐かつ子, 宮内信治, 小野剛志, 小寺隆元
診療看護師(JNP)の活動がもたらす影響—長崎医療センターでの臨床研修をととしての成果 本田和也, 和泉泰衡
周術期領域における診療看護師(NP)の活動と成果 吉田弘毅, 伊藤豊
チーム医療「急性期早期離床チーム」における診療看護師(NP)の役割 平田尚子, 菊野隆明
消化器外科病棟における診療看護師(NP)の役割と成果 飯野雅子, 鈴木英之
②在宅医療・訪問看護のケース
診療所における診療看護師(NP)の活動と成果 長谷川健美, 山田顕士, 福田広美
訪問看護ステーションにおける診療看護師(NP)導入前後の実態調査—訪問看護関連報酬に焦点を当てて 光根美保, 守永
里美, 藤内美保, 宮内信治, 阿南みと子, 財前博文
③介護老人保健施設, 重症心身障害児(者)施設等のケース
介護老人保健施設における診療看護師(NP)の活動成果 廣瀬福美, 小野美喜, 小寺隆
重症心身障害児(者)施設における診療看護師(NP)の成果 後藤愛, 高野政子, 佐藤圭右
④看護の視点からみたケース
高齢者医療施設における診療看護師(NP)の活動成果 平野優, 町屋晴美
〈座談会〉
診療看護師(NP)の新たな発展をめざして—活動の成果とこれからのビジョン 草間朋子, 村嶋幸代, 真田弘美, 深井照美
The Contributions of Research in the Development of Nurse Practitioners in the United States Jamesetta A. Newland
〈特別記事〉
看護における知的財産活動の活性化のために看護系大学における知的財産活動 丞村宏
〈連載〉
混合研究法入門④ 混合研究法の手続き(その2) 抱井尚子
Journal Watch 海外の看護学研究から学ぶ④ 看護学生への災害時の看護管理教育を考える 小玉淑巨
米国の看護研究チームの活動を知る—項目反応理論モデルを用いた二次分析 那須佳津美
UCSFで看護研究を学ぶ④ 倫理審査委員会への研究計画申請と学生生活 齋藤真希

Vol.
48
No.
4
Suppl.

●増刊号特集 | 大学院で学ぶ意味—新たな看護を創るために

〈博士修了の立場から〉
大学院における研究のプロセスと学び 内川洋子, 山田 寛
臨床での経験と研究, そして研究結果を実践で活用するための研究へ 菊地悦子, 酒井郁子
東日本大震災がきっかけとなった研究活動 佐藤眞理, 吉沢豊子
新たな知の創造 山内朋子, 筒井真優美
〈修士修了の立場から〉
リハビリ志向の共同意思決定 Shared Decision Making との出会い 青木裕見, 萱間真美
大学院で学ぶことから展開する知識の応用と研究に対する自覚—修士論文の研究の進行過程を辿りながら 新 裕紀子, 中
尾久子
看護研究から問題解決の方法を学ぶ 藤原美保, 坂下玲子
“わからないこと”を考え続ける—その原点としての修士論文 細野知子, 西村ユミ
人生に面白味を与えてくれた大学院 三田村裕子, 金井 Pak 雅子
スタートライン—看護師が働きやすい環境を考え続けたい 横山麻美, 山本則子
実践に根ざした知を創る 吉行紀子, 河野あゆみ
〈特別記事〉
臨床を中心に考える看護研究者のあり方とは—クリティックとシステマティックレビューの重要性 植木慎悟
【文化人類学と看護学—質的研究をめぐる】
文化人類学からみた看護領域における質的研究の特殊性—なぜカテゴリーが好まれるのか? 磯野真穂
看護学における質的研究の独自性と課題—文化人類学者の問いが突きつけるもの 田辺けい子, 水嶋知子
〈原著論文〉
住民との協働を基盤とした活動の保健師の行動意図に影響する要因の構造 山谷麻由美, 中尾八重子, 竹口和江

